

せんだい普及センターだより

# BLOSSOM

Vol.82

令和5年3月2日発行

発行:宮城県仙台農業改良普及センター(仙台地方振興事務所農業振興部)

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320(地域農業班)

FAX 022-275-0296(共通)

022-275-8410(先進技術第一班)

E-mail sdnokal@pref.miyagi.lg.jp

022-275-8374(先進技術第二班)

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/> →



**人材の募集や雇用環境整備について、  
しっかり学び、そして実践へ！**

写真：せんだい農業園芸センター  
(令和5年2月16日撮影)

## 令和4年度 農業法人ステップアップセミナー開催

普及センターでは、仙台市農業振興課と共催で、管内農業法人の経営者及び社員を対象として「農業法人ステップアップセミナー」を令和5年2月10日、16日の全2回コースで開催しました。

毎年恒例の当セミナーですが、今年度は人材確保や雇用環境の整備等を題材として、講師に松倉社会保険労務士事務所の松倉恵子氏をお招きし、講義とワークショップを行いました。雇用情勢が大きく変化する中、参加者にとって、有意義な場となりました。



ワークショップの様子 (2月10日)





プロジェクト  
課題 No.1

## 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着 【令和3年度～令和5年度】

対象：有限会社薬師農産，農事組合法人かすかわ（大郷町）

大郷町前川地区では、農地整備後の高収益作物として、えだまめの導入が検討されています。それを見据え、本プロジェクトでは、「有限会社薬師農産」と「農事組合法人かすかわ」を対象として、えだまめの導入・定着の支援を行っています。

今年度は、前作の反省を踏まえて、排水対策として補助暗渠を施工しました。また、作付計画や栽培層、除草体系、生育調査等に基づき、肥培管理や病害虫・雑草防除の状況確認・助言を行ったほか、作業の種類ごとの労働時間調査を実施しました。

結果として、7月の大雨による湿害はあったものの、排水対策が奏功し、大きな減収を回避できたことで、前年を上回る335kg/10aの収量を確保することができました。また、労働時間調査により、連作ほ場においては、雑草対策の徹底が重要との認識を共有できました。一方、法人間の収穫時期が重なるなどの課題も残りました。引き続き、農地整備事業後の高収益作物の

モデル的な取組となるよう関係機関と連携して支援してまいります。



えだまめ収穫作業（令和4年8月）

プロジェクト  
課題 No.2

## 「シャインマスカット」の産地形成に向けた生産・販売力向上【令和3年度～令和4年度】

対象：JA新みやぎあさひなぶどう部会 中核的農家5人（富谷市・大和町・大郷町）

JA新みやぎあさひなぶどう部会は、平成28年に設立され、令和4年3月時点で31名が加入しており、部会員の多くは「シャインマスカット」を栽培しています。樹形が完成した樹も増えており、今後の本格的な出荷販売を見据えて、生産力及び販売力の向上が課



シャインマスカット販売会（令和4年9月）

題となっていました。

普及センターでは、昨年度に引き続き、一層の品質向上や収量増加、省力化が可能な栽培技術の習得について研修会の開催（5回）を支援しました。また、JAと協力して実施した実需者ニーズの調査結果や全国の「シャインマスカット」の流通動向等を部会員で共有しました。これにより、出荷先のニーズに合わせた栽培技術への理解が深まり、各生産者が目標とする房重や流通形態に沿った技術改善（房重・粒数の調整、高糖度栽培に向けた管理等）が進みました。

その他、実需者ニーズに応じた出荷形態や販売方法の検討、産地PR等を支援しました。今年度作成した部会パンフレットも活用し、産地PRに向けて直売所等と連携して実施した販売会は、生産者の参加も得られ非常に好評で、今後も部会で継続して取り組んでいくことが計画されています。

プロジェクト  
課題 No.3

## 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化【令和3年度～令和5年度】

対象：農事組合法人あきう生産組合（仙台市）

仙台市太白区の農事組合法人あきう生産組合は、平成28年度にJA出資型法人として設立し、水稻・大豆・そばの生産を行っています。

今年度は、大豆について、コスト低減を目的として低価格な肥料を施用した調査ほを設置したほか、新規品目として導入したそらまめ、ブロッコリーなどの栽培支援、人材確保に向けた支援を行いました。

その結果、大豆については調査ほ等のコスト分析により、経営の柱であると再確認されるとともに、低価格肥料の有効性が確認されました。また、導入2年目のそらまめについては、収量が増加するなど、農産物の売上げが増加する見込みです。さらには、人材確保に向けて、雇用をうまく活用している土地利用型法人を視察することで、法人内や地域内で人材を確保して

いく等の方向性が明確となり、その方法について話し合いが始まっています。



水稻・大豆振り返り検討会（令和5年1月）



## プロジェクト 水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上【令和4年度～令和5年度】

課題 No.4 対象：水稲乾田直播栽培実践農家3経営体（仙台市）

管内では、仙台市東部地区を中心に水稲乾田直播栽培面積が年々増加しています。本プロジェクトでは、さらなる面積拡大を狙い、仙台市六郷地区で新たに取組を始めた3経営体を中心に、水稲乾田直播栽培の技術確立と定着、及びネットワークづくりのため、関係機関と連携して支援を行っています。

今年度は、水稲乾田直播栽培におけるポイントを押さえてもらい、かつ意見交換の場として現地勉強会5回と、1月には本年作の振り返りのため総合検討会を開催しました。また、勉強会のフォローアップや、水稲生育調査結果等に基づいた適期作業についての助言も行いました。

結果として、適切な栽培管理について理解され、概ね適期に作業が実施されたこともあり、水稲乾田直播栽培の収量は、目標の506kg/10aを上回る550kg/10aとなりました。また、勉強会では活発な意見交換が行われたことで、生産者間の新たな繋がりが生まれました。

令和5年度も、定期的に現地勉強会を開催し、ほ場巡回や意見交換を行う予定です。関心のある方は、普及センターまでお問い合わせください。



総合検討会の様子（令和5年1月）

### 「園芸特産振興研修会～肥料価格の高騰を乗り切ろう！～」を開催しました。

令和5年2月1日、せんだい農業園芸センターを会場に、当普及センター主催で「園芸特産振興研修会～肥料価格の高騰を乗り切ろう！～」を開催し、管内の農業者やJA等関係者含めて42名が参加しました。

近年、肥料や農薬などの資材価格が高騰し、農業経営に深刻な影響を与えています。そこで、本研修会では、露地園芸作物を対象として、「肥料コスト低減につながる技術」をテーマに、

雪印種苗株式会社植物機能性研究グループ 和田美由紀係長と農業・園芸総合研究所園芸環境部 瀧上席主任研究員に御講演をいただきました。



雪印種苗株式会社 和田 美由紀係長

和田係長からは、緑肥作物の活用による土づくりと肥料低減、土壌病害虫の抑制について、また、瀧上席主任研究員からは、土壌分析を活用した減肥や混合堆肥複合肥料の活用等について丁寧に御説明をいただきました。緑肥作物は農業者の関心が高い話題であり、参加者からは多くの質問が出され、有意義な研修会となりました。



質疑応答の様子

### 農作業前に使用する農薬のラベルを確認しましょう！

農薬の不適正使用で、食品衛生法の残留基準値を超えて農薬が残留すると、出荷した農作物は回収や廃棄の対象となります。農薬を使用する際は、日頃から農薬ラベルを確認し使用記録の記帳を行いましょう。

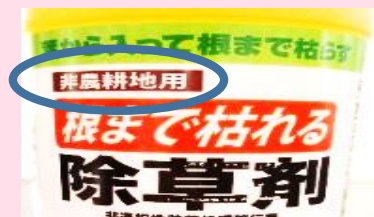
#### <近年の残留基準値超過の主な原因>

- ①ラベル（使用時期、希釈倍数等）を確認せずに農薬を使用した
- ②名前や形状が類似した農作物に適用があると思い込み誤って使用した
- ③防除器具の洗浄が不十分であったため、別の農作物に使用した農薬が混入した

ラベル例示：  
「農林水産省登録  
第●●●号」  
と表示されている

いずれも使用する農薬に対する慣れから発生しています。

農薬を使用する際は、ラベルに記載されている適用病害虫の範囲及び使用方法、使用上の注意事項並びに最終有効年月を確認し、記載事項に従って使用しましょう。



農薬登録のない非農耕地用除草剤  
(農作物等の栽培・管理には使用できない)



農薬登録のある除草剤（例）

## トピックス～普及センターブログより～



★宮城県内の普及情報がわかる  
「宮城の農業普及活動ブログ」  
のQRコードはこちらから→



## 『仙南農業士会及び仙台農業士会交流会』開催

令和4年度仙南農業士会及び仙台農業士会との交流会が令和4年12月6日に仙南地域で開催され、仙南農業士会12名、仙台農業士会4名、事務局3名、計19名が出席しました。

視察研修では、角田市の合同会社あぐりっとかくだ、有限会社角田健土農場、蔵王町の株式会社ゼルコバドリーのヨーグルト工房Atreyu（アトレイユ）、白石市の木須農園の取組を学び、とんとんの丘もちぶた館で昼食交流会も実施しました。

農業士の方々は、各研修場所で活発な意見交換を行い、コロナ禍でも積極的に投資を行い、直接販売することで売上げを確保する等様々な取組に感銘を受けるとともに、前向きな活動に元気をもらった様子で、大変有意義な交流会となりました。



有限会社 角田健土農場視察

## 『宮城教育大学附属小学校の体験学習会』開催

令和5年1月13日、国立大学法人宮城教育大学附属小学校の2年生30名を対象とした、「土づくり」のための体験学習会が開催されました。

当校2年生は授業の一環で、有限会社今野醸造（加美町）の協力で学校畑で大豆を栽培し、それを材料に味噌づくりに取り組んでいます。しかし、ここ数年大豆の収量が減少しており、土に原因があるのではと仮説を立て、児童たちなりに試行錯誤してきました。そこで今回、「土づくり」に関する授業をしてほしいと依頼があり、普及センターがゲストティーチャーとして参加しました。

はじめに、児童たちが考えた「いい土」についての発表を聞き、その発表に対して講評などを行いました。

次に、普及センターから「土って何だろう？いい土って何だろう？」というタイトルで、児童たちと土について一緒に考えながら、講義を行いました。

最後に、講義内容の振り返りを兼ねて、小学校の畑で、「土の色」や「砂や粘土の感触の違い」などについて、土を触りながら確認しました。

終始質問が飛び交い、有意義な学習会となりました。



「土の色」や「感触の違い」を確認

## りんごせん定研修会開催

りんごの研修会が各地で開催され（JA新みやぎあさひなりんご部会:令和5年1月18日、JA仙台根白石果樹生産組合:令和5年1月27日）、防除暦検討及びせん定実技講習を行いました。

防除暦検討では、普及センター職員が講師となり、今年度の防除時期や病害虫発生状況等の振り返りを実施し、課題等を次年度の防除計画に反映させた内容の防除暦を策定しました。

せん定実技講習は、受光態勢の改善や薬剤のかりやすさ、作業性の向上等を目的とした枝の間引きと小枝の整理方法等について、生産者と意見を交わしながら枝の良し悪しを見極めて技術向上を図りました。

園地を引き継いで間もない担い手の参加もあり、各部会員の栽培技術やせん定方法等についてたくさん情報交換がなされる良い機会となりました。



りんごせん定実技指導

## 凍霜害の発生に備えましょう！

昨年は4月末の低温・降雪により、管内では、なしやりんご等で凍霜害・着雪害が発生しました。開花期や結実直後の幼果期は最も障害を受けやすい時期です。春先の気温が高く推移し、開花期が前進した場合は、危険性が高まります。霜注意報や気象庁の「農業気象」に関するホームページ等の情報を参考にして、事前の被害軽減対策（※）に努めましょう。

また、もしもの場合に備えて、果樹共済などセーフティネットへ加入しましょう。



凍霜害を受けたりんごの花（めしべの褐変）

★気象庁の「農業気象」のホームページアドレス。農業分野に役立つ気象情報のQRコードはこちらから→



## ※【被害軽減対策について】

- ・防霜資材や燃焼資材の活用
- ・草刈りの実施や敷きわらの除去による日中の地温確保、乾燥時のかん水、冷気の滞留を助長するような防風ネットの除去
- ・被害を受けた場合には、人工授粉を徹底し、結実確保に努めましょう。